大阪民衆史研究会報

2025年6月号
第32巻第5号
（通巻356号）

発行　大阪民衆史研究会（代表 林　耕二）

E-mail: osaka.minshushi@gmail.com（オーサカ ドット ミンシューシ）

例会のお知らせ

◇7月例会

日時　7月13日（日）13時半開場、14時開会
会場　大阪府教育会館　3F桜の間
報告　中尾恵子さん（一般社団法人日本ビルマ救援センター代表）
「ミャンマーの現状について－草の根の支援活動を通して」

民主化への道を進めていたミャンマーは、2021年2月、軍のクーデターによって、再び軍事政権の国へ戻ってしまった。民主化を求める市民への弾圧、抵抗勢力への空爆は後を絶たず、打ちひしがれた市民に台風、洪水、大地震の天災が追い打ちをかける。国内避難民の数は350万人を超え、国民の3人に1人が支援を必要としている。日本ビルマ救援センターは、草の根のネットワークを繋ぎ、軍の手に渡らず、直接被災者に届ける支援活動を続けている。

◇8月例会

日時　8月10日（日）13時半開場、14時開会
会場　大阪府教育会館3F蘭の間
報告　山中康平さん　　コメンテイター　赤塚康雄さん（会員）
「大阪市の学童集団疎開史－受け入れ側・四国地方からの考察」

アジア・太平洋戦争中、大都市で暮らす子どもたちを対象に学童集団疎開が実施された。大阪市は子どもたちを集団疎開させたが、疎開先のひとつ四国（愛媛・香川・徳島）は、どのように疎開児童を受け入れたのか。学童集団疎開史は多くの場合、「疎開側」の立場で研究される。「受入側」からの研究は少なく、対象地域は東日本、近畿、中国地方ばかりである。四国は資料的制約から研究が皆無に等しい。しかし、本報告では報告者がつぶさに調べた地域資料と、埋もれていた史料を多分に用いる。空白地帯の四国を統一的・体系的に実態調査を行うことは大阪市の学童集団疎開史の全体像を明らかにする上で重要となる。

参加費　会員400円　非会員500円